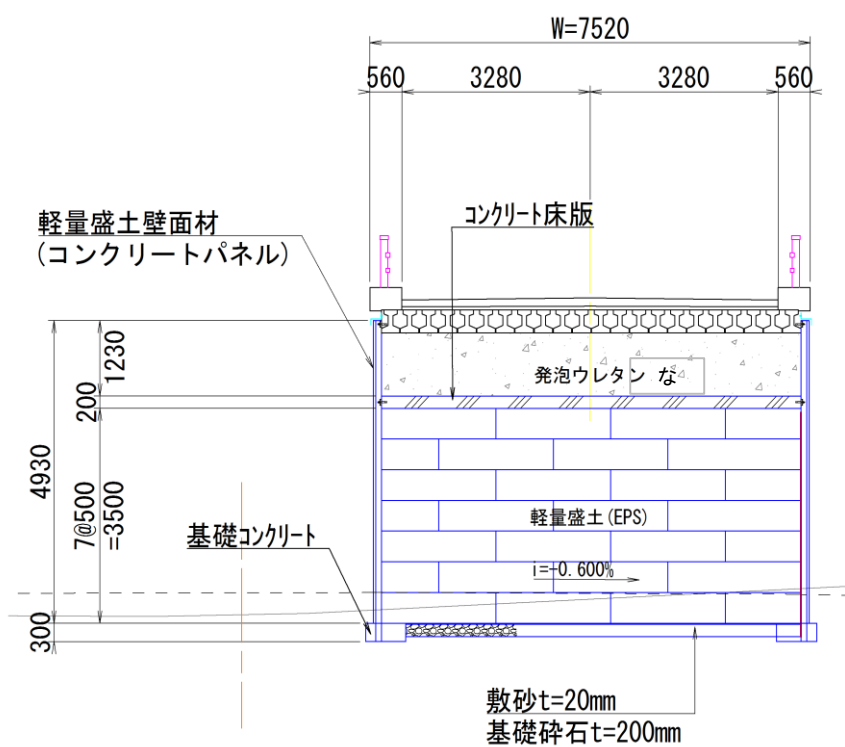


技術概要書（様式）

※別紙2

出展技術の分類	安全・防災 インフラDX <u>維持管理</u> 環境 コスト 品質 (該当分類に○を付記)
技術名称	フォームサポート工法
NETIS登録番号	K T - 2 2 0 0 6 1 - A
社名等	株式会社 J S P
	担当部署 土木資材部西日本土木資材グループ
	担当者 梅野 清登
	電話番号 092—411—6854
技術の概要	1. 技術開発の背景及び契機 橋梁、トンネルなどは5年に1度の点検が義務化となっており、老朽化した橋梁などは、補修・改修が急務となっています。現在、全国には72万もの橋梁があり、市町村道は52万橋となっています。2029年には全体の52%程度が建設後50年を経過し、橋梁の補修・改修が一層必要となります。 すべての橋梁を更新することも困難な中、迂回路が必要となり、かつ高価な架け替えでは無く、道路交通を供用したまま、より安価に補修をする工法が必要となります。 フォームサポート工法は、道路交通を供用したまま、橋脚・橋台間などの桁下にEDO-EPSブロックと発泡ウレタン等を中詰めすることで、橋梁を補修・改修する工法です。 2. 技術の内容 フォームサポート工法は、橋脚等の間に橋桁を架渡した構造の橋梁をEDO-EPSブロックと発泡ウレタン等で補強する中詰め工法です。 また、劣化した橋梁全体を土構造物化、または橋梁の補強構造体としてそのまま使用することもできます(EDO-EPSブロックを使用した軽量盛り土と同等の取り扱いとなるため、本設の構造物となります)。 3. 技術の効果 土砂とセメントと気泡を混合する気泡混合軽量盛土工法(FCB)が同様の補強工法としてありますが、製造プラントのヤードが必要であるため、狭隘な現場では重機を用いた施工が困難という課題がありました。 また、気泡混合軽量盛土工法の単位重量は5～15kN/m3と重いため、軟弱地盤などには適用が困難となります。 フォームサポート工法では、製造プラントや重機が不要、かつEDO-EPSブロックの軽量性により、施 4. 技術の適用範囲 ・橋梁等の間に橋桁を架渡した構造の橋梁。 ・桁下高さが2m以上20m以下の橋梁。 ・橋梁下の地盤が軟弱な場所。 ・周辺に製造プラントヤードを確保できない現場および重機が配置できない場所。 ・ただし、高さ20mを超える盛土や水位が盛土をオーバーフローもしくは常時水に浸かるような場所では要検討。 5. 活用実績 国の機関 3件（九州 0件、九州以外 3件） 自治体 3件（九州 0件、九州以外 4件） 民間 0件（九州 0件、九州以外 0件）

6. 写真・図・表



フォームサポート工法®の 施工手順

軽量材を用いているため、施工手順が
簡素化され、工期短縮が可能です。

